

8月に入りました。8月は平和について考えるよい機会です。戦争や争いは今現在でもなくなってはいません。家族で、学校で、しばし平和について考えてみませんか？

『せかいいちうつくしいぼくの村』

小林 豊 作・絵 1995年 ポプラ社 1260円 絵本

<お勧め年齢>

幼稚園☆☆☆ 小低学年★★☆ 小中学年★★★ 小高学年★★★ 中学生★☆☆
高校☆☆☆ 一般☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

パグマンの村の夏は、すももやさくらんぼのとりいれの時。たくさんとりいれたすももやさくらんぼをヤモはお父さんとロバのロンパーをいっしょに町へうりにいきます。いつもはにいさんがいくのですが、ことしはにいさんはせんそうへ行ってしまって村にはいないのです。

町では、お父さんは広場ですももを、ヤモはロンパーと一緒に町をまわってさくらんぼをうり歩きました。そして、うったお金でお父さんはヤモがびっくりするものを買ったのです！それは…まっしろなこひつじ。村では見たこともないくらいきれいなこひつじでした。ヤモとお父さんはひつじを村に連れてかえり、にいさんのかえりを心まちにするのですが…せんそうはすべてをうばってしまうのです。

<子どもに手渡すときのポイント>

一人で読んでも心にくる本ですが、多人数によみきかせをしても大丈夫です。ただ、ページが多く時間がかかるので、小学生以下の子どもには少し長すぎるかもしれません。また、最後のページの意味も、あまり小さな子どもにはわかりづらいと思われます。

美しい絵をじっくりと見せながら、しっかりと心をこめて、静かに読んであげてください。

大人の人や高学年の子どもでしたら、本の最後のくもっとパグマンの村のことを知りたいひとへ>こところもぜひ読んでみてください。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店にあります。ぜひ手に取ってみてください。